

# 小論文

## 医学部（保健学科）

### 注意事項

- 一、「解答始め」の合図があるまでこの冊子は開かないこと。
- 二、この冊子は表紙を除いて4ページである。
- 三、「解答始め」の合図があつたら、まず、掲示又は板書してある問題冊子ページ数・解答用紙枚数・下書き用紙枚数が、自分に配付された数と合っているか確認し、もし数が合わない場合は手を高く挙げ申し出ること。次に、受験番号・氏名を必ず2枚の解答用紙の指定された箇所に記入してから、解答を始めること。
- 四、解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に縦書きで記入すること。

著作権の観点から、公表しておりません。

次の課題文を読んで後の設問に答えなさい

〔課題文〕

著作権の観点から、公表しておりません。

著作権の観点から、公表しておりません。

出典：『多動脳 ADHDの真実』

(アンデシユ・ハンセン著、久山葉子訳、株式会社新潮社、二〇二五年)

(注1) ドーパミン：脳の神経細胞の興奮の伝達に重要な働きをする神経伝達物質。(大辞林 第四版より引用)

(注2) ADHD：Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder 注意欠如・多動性障害

\*出典にあたり、課題文を一部改変した。また、常用漢字表を参照して一部ルビをふった。

〔設問1〕 傍線部①「報酬系を十分に活性化してくれないものには集中できないから、他に活性化させてくれるものを探してしま  
う。」とはどのような状況か、自身の経験を踏まえ250字以上300字以内で述べなさい。

〔設問2〕 傍線部②「自分の能力と〈強み〉を人生で活かすにはどうすればいいのか。」に関して、医療従事者としてADHDの  
人と接する場合にどのような配慮をするのか、著者の考えを踏まえて自身の考えを250字以上300字以内で述べな  
さい。

